

SmallSat Conference 2015 参加報告

2015年9月5日



葛岡 成樹



© The American Institute of Aeronautics and Astronautics (AIAA)/ Utah State University (USU)

目次

概要 :	1
感想 :	1
講演 :	2
展示 :	2
ちょっと一言.....	2

概要 :

米国航空宇宙学会(The American Institute of Aeronautics and Astronautics: AIAA)とユタ州立大学(USU)共催の第 29 回 SmallSat Conference が 2015 年 8 月 10 日から 13 日の間、米国ユタ州ローガンにて開催された。参加者は 35 カ国から 1800 人に及び、展示も 130 企業・団体、10 大学であった。小型衛星のコンファレンスとしては世界最大規模だと思われる。今年のテーマは ALL SYSTEMS GO! – CRITICAL PIECES FOR MISSION SUCCESS であった。日本からも 30 人近くが出席し、3 社、2 大学が展示していた。



感想 :

昨年と同コンファレンスのテーマが「The

Commerce of Small Satellites」であり、小型衛星の商用化を議論する場になっていたのが今年も期待したが、正直商用の小型衛星及び同ビジネスは深く潜行して報告・展示がなかった。目立ったのは軍と大学であり、本格的に小型衛星を用いて事業をしようとしている企業ほど表の場には顔を出さなかった。例えば地球観測では SkyBox の展示で学生インターンが説明する程度で Planet Labs や Black Sky は講演・展示なし、今年から大きな話題になっている OneWeb、Space-X などの小型通信衛星のメガコンスタレーションについても講演・展示が一切なかった。昨年はこれらのビジネス情報および関連技術情報が幾分かは収集できたが、今年は目前に迫っているプロジェクトの情報が一切出なかった。これはいよいよ実際にビジネスが始まるからという見方ができるのかもしれない。

もう一点気になった点としては、今回の講演・展

示では小型衛星「単体」の技術的な話を中心となり、多数の小型衛星をコンステレーションとして打上・運用する具体的な話はほとんどなかった。確かに小型衛星は製造・打上が安価にできるとはいうが、ビジネスに使用するには複数衛星のコンステレーションが必要となり、大学やスタートアップ企業だけでは実現が困難である。総額を考えると、やはり大きな投資が必要なビジネスとなってくる。小型衛星が安く・実用にも使えるという良いところ取りの話だけでは済まない現実が、共有されるようになってきた。

講演：

以下略

展示：

以下略

お問い合わせは：



<http://sat-biznet.com>

葛岡 成樹

ちょっと一言

ユタ州の州都ソルトレークシティーから車で2時間ほどの小さな町ローガンで毎年 SmalSat Conf は開催される。2010



年の統計では人口 48,000 人程度。大学が中心の小さな町に 2,000 人に近い人が押しかけるので、ホテルの予約が大変。5 月に予約した時点で既にローガンのホテルはすべて満室であり、大学から車で 1 時間以上かかる Brigham City という隣町のモーテルにやっと予約を取ることができた。車を運転しないと毎日シャトルバスやタクシーで通うことになる。

来年 2016 年の SmallSat Conf は、8 月 6 日から 11 日に同じローガンで開催される。帰国後、あわてて来年のコンファレンスに合わせて、ローガンのホテルを今から予約した。

以上